

第5期(平成22年3月期)  
決算説明資料

平成22年6月11日



阪神高速道路株式会社

# 目次

---

1. 平成22年3月期の連結業績	.....	2
2. 平成23年3月期の業績見通し	.....	12
3. 阪神高速グループの概要	.....	15

---

# 1. 平成22年3月期の連結業績

## 当期連結決算の概要(1)

当社グループの当期の連結業績は、営業収益**1,782億円**(前年同期比▲441億円)、営業利益**43億円**(前年同期比+6億円)、経常利益**52億円**(前年同期比+4億円)、当期純利益**30億円**(前年同期比▲5億円)となりました。

事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

### (1) 高速道路事業

- ◆**阪神高速道路の通行台数**は年度前半の景気の低迷が響き  
一日当たり約86万台(前年同期比1.1%減)  
これに加え、国の経済対策や高速道路ネットワークの有効活用の方針等を踏まえ  
実施した料金引下げ等により、**料金収入等**は1,588億円(前年同期比9.5%減)
- ◆**道路資産賃借料**は1,137億円(前年同期比13.5%減)
- ◆**機構への債務引き渡しに伴う道路資産完成高及び道路資産完成原価**は  
新設路線の開通がなかったことにより70億円(前年同期比81.0%減)
- ◆この結果、高速道路事業において  
**営業収益**は1,666億円(前年同期比21.9%減)  
**営業費用**は1,628億円(前年同期比22.5%減)  
**営業利益**は38億円(前年同期比15.1%増)となりました。

## 当期連結決算の概要(2)

### (2) 受託事業

- ◆ 京都市道高速道路2号線に係る工事をはじめとして、国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等の事業を受託したことにより、  
営業収益は93億円(前年同期比26.6%増)  
営業費用は93億円(前年同期比22.0%増)  
この結果、営業利益は0.7億円(前年同期は営業損失2億円)となりました。

### (3) その他の事業

- ◆ 休憩施設でのサービス向上、駐車場施設の新規開設等増収に取り組むとともに、新たに大阪港咲洲トンネル等の道路管理代行事業を開始したことにより、  
営業収益は21億円(前年同期比41.7%増)  
営業費用は17億円(前年同期比78.5%増)  
この結果、営業利益は4億円(前年同期比20.3%減)となりました。

# セグメント別の連結業績

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

高速道路事業	営業収益	営業費用	営業利益
■ 高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	(料金収入等) <b>1,588</b> (対前年同期比 ▲167)	(道路資産賃借料) <b>1,137</b> (対前年同期比 ▲176)	<b>38</b> (対前年同期比 +5)
	(道路資産完成高) <b>70</b> (対前年同期比 ▲298)	(道路資産完成原価) <b>70</b> (対前年同期比 ▲298)	
	(その他) <b>7</b> (対前年同期比 ▲2)	(管理費用) <b>420</b> (対前年同期比 +2)	
<b>高速道路事業 計</b>	<b>1,666</b> (対前年同期比 ▲467)	<b>1,628</b> (対前年同期比 ▲472)	<b>38</b> (対前年同期比 +5)
受託事業	営業収益	営業費用	営業利益
■ 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等及びその他委託に基づく事業等	<b>93</b> (対前年同期比 +19)	<b>93</b> (対前年同期比 +16)	<b>0</b> (対前年同期比 +2)
その他の事業	営業収益	営業費用	営業利益
■ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路管理の代行等に係る事業	<b>21</b> (対前年同期比 +6)	<b>17</b> (対前年同期比 +7)	<b>4</b> (対前年同期比 ▲1)
<b>全事業 計</b>	<b>1,782</b> (対前年同期比 ▲441)	<b>1,738</b> (対前年同期比 ▲448)	<b>43</b> (対前年同期比 +6)

(注)「料金収入等」には社会実験減収補填金(H20:52億円, H21:46億円)を含めています。

# 高速道路事業

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区 分		21年3月期	22年3月期	増減
営業収益	料金収入等	1,756	1,588	▲167
	道路資産完成高	368	70	▲298
	その他	9	7	▲2
		2,134	1,666	▲467
営業費用	道路資産賃借料	1,313	1,137	▲176
	道路資産完成原価	368	70	▲298
	管理費用	418	420	+2
		2,101	1,628	▲472
高速道路事業 営業利益		33	38	+5

## 主な増減内容

### ●営業収益

- ・年度前半の景気の低迷により通行台数が減少し、一日当たり平均通行台数は、約86万台(前年同期比1.1%減)
- ・料金収入等は、通行台数の減少及び料金引下げ等により、1,588億円(前年同期比167億円減)
- ・道路資産完成高は、新設路線の開通がなかったことにより、70億円(前年同期比298億円減)

### ●営業費用

- ・道路資産賃借料は、協定変更等に伴い、1,137億円(前年同期比176億円減)

(注)「料金収入等」には社会実験減収補填金(21年3月期:52億円,22年3月期:46億円)を含めています。

# 関連事業

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分		21年3月期	22年3月期	増減
受託事業	営業収益	74	93	+19
	営業費用	76	93	+16
	営業利益	▲ 2	0	+2
その他の事業	営業収益	15	21	+6
	営業費用	9	17	+7
	営業利益	5	4	▲1
関連事業 営業利益		3	5	+1

## 主な増減内容

### ●受託事業

工事進行基準を適用したことにより、  
 営業収益は前年同期比19億円の増となり、  
 営業利益は前年同期比2億円の増

### ●その他の事業

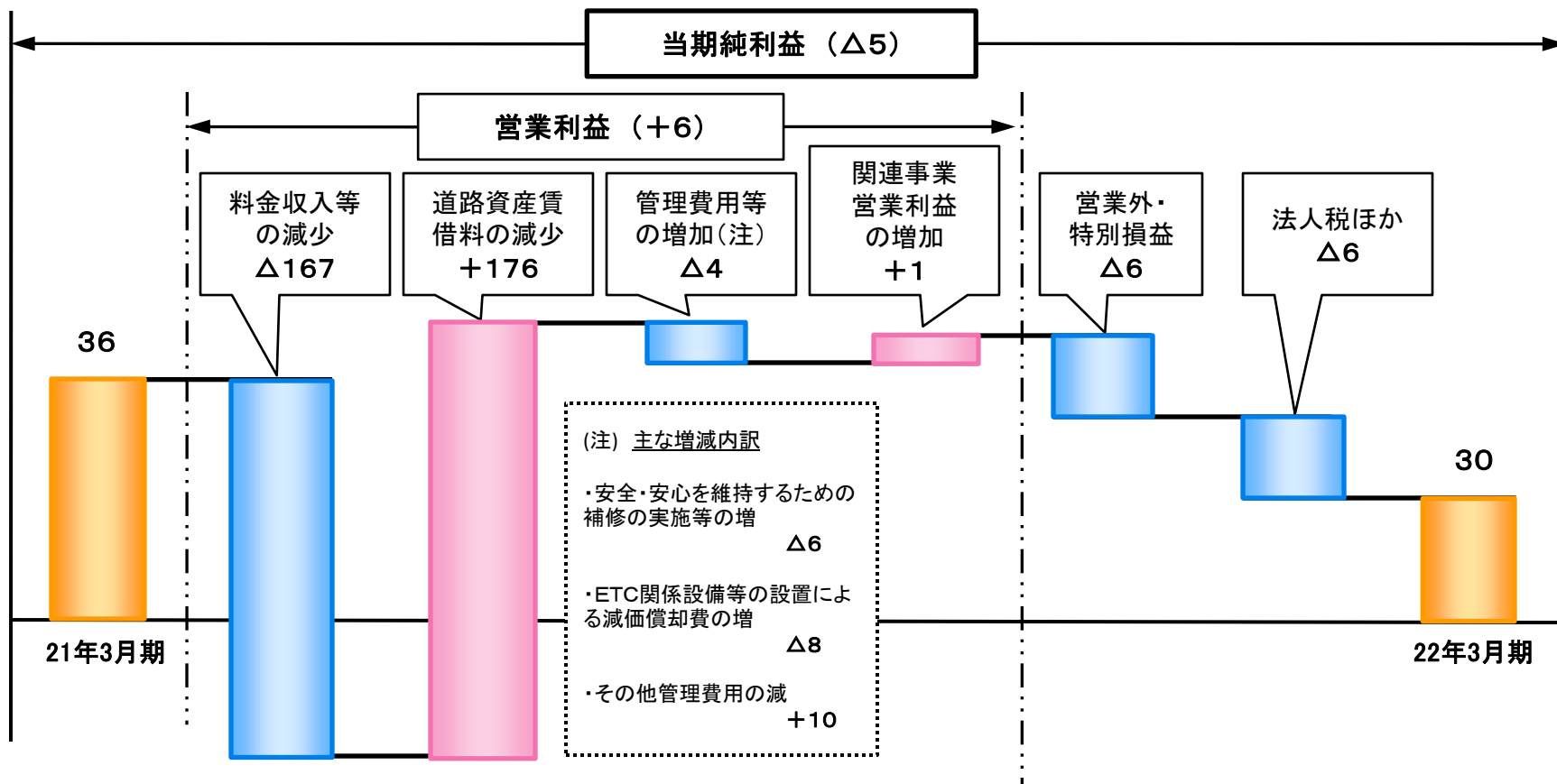
- ・営業収益  
 道路管理代行事業の開始  
 による増 5億円 等
- ・営業費用  
 道路管理代行事業の開始  
 による増 5億円  
 駐車場事業管理費用の増 1億円 等



# 連結当期純利益増減要因

◆前年同期比 5億円減少  
(21年3月期:36億円⇒22年3月期:30億円)

単位:億円[単位未満切捨て]



※道路資産完成高及び道路資産完成原価を除く

# 連結貸借対照表

単位：億円〔単位未満切捨て〕

資産の部			
科目	21年3月期	22年3月期	増減
I . 流動資産	2,176	2,643	+467
うち仕掛道路資産	1,455	1,823	+368
II . 固定資産	547	528	▲18
<b>資産合計</b>	<b>2,723</b>	<b>3,172</b>	<b>+448</b>

負債・純資産の部			
科目	21年3月期	22年3月期	増減
I . 流動負債	459	773	+314
II . 固定負債	1,949	2,054	+104
<b>負債合計</b>	<b>2,409</b>	<b>2,828</b>	<b>+418</b>
I . 株主資本	294	324	+30
資本金	100	100	-
資本剰余金	100	100	-
利益剰余金	94	124	+30
II . 少数株主持分	20	18	▲1
III . 評価・換算差額等	▲0	0	+0
<b>純資産合計</b>	<b>314</b>	<b>343</b>	<b>+29</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>2,723</b>	<b>3,172</b>	<b>+448</b>

## 主な増減内容

- **流動資産**
  - 譲渡性預金                   +263億円
  - 現金及び預金               ▲181億円
  - 未収入金                   ▲40億円
- **固定資産**
  - ETC設備等                   +50億円
  - 減価償却                   ▲71億円
- **流動負債**
  - 1年以内返済予定長期借入金  
                                  +259億円
- **固定負債**
  - 道路建設関係社債・長期借入金  
                                  +139億円
- **純資産**
  - 当期純利益                   +30億円
  - 少数株主持分               ▲1億円

# 連結キャッシュ・フロー計算書

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区分	21年3月期	22年3月期	増減	主な増減要因
営業活動によるCF	▲160	▲256	▲96	仕掛道路資産の完成引渡の減 ▲298 仕掛道路資産に係る支出の減 20 変動貸付料未収金等に係る収入の増 109 前期末未払金に係る支出の減 81
投資活動によるCF	▲42	▲82	▲40	固定資産の取得支出の減 ▲38 固定資産の売却収入の増 12 子会社株式の取得収入の減 ▲10
財務活動によるCF	154	421	+267	長期借入れ等による資金調達の減 ▲39 長期借入金の機構引渡の減 318 長期借入金の返済額の増 ▲10
現金及び現金同等物の 期末残高	297	379	+82	

## 高速道路会社のキャッシュ・フロー計算書の特殊性

- 高速道路への建設投資は、高速道路会社にとって機構に対する「商品」のため、投資額は『営業活動CF』のマイナスとして、これに見合う資金は借入調達するため『財務活動CF』のプラスとして整理する。
- 高速道路が開通しこれを機構に引き渡す際に、道路資産完成高は『営業活動CF』のプラスとして、借入金の引渡額を『財務活動CF』のマイナスとして整理する。
- 従って、高速道路の投資額が完成高を上回る当連結会計年度の『営業活動CF』はマイナスとなる。

# 当期個別決算の概要

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

損益計算書			
区分	21年3月期	22年3月期	増減
営業収益	2,207	1,765	▲ 442
営業費用	2,173	1,732	▲ 440
営業利益	34	32	▲ 2
営業外収益	6	4	▲ 1
営業外費用	3	1	▲ 1
経常利益	37	35	▲ 1
特別利益	10	2	▲ 7
特別損失	3	3	+0
税引前当期純利益	44	33	▲ 10
法人税等	12	14	+2
当期純利益	31	18	▲ 12

貸借対照表			
区分	21年3月期	22年3月期	増減
総資産	2,656	3,097	+440
流動資産	2,139	2,584	+445
固定資産	517	512	▲ 4
総負債	2,375	2,797	+421
流動負債	452	770	+318
固定負債	1,923	2,026	+103
(うち有利子負債)	1,129	1,398	+268
純資産	280	299	+18
資本金	100	100	-
資本剰余金	100	100	-
利益剰余金	80	99	+18
自己資本比率	10.6%	9.7%	▲0.9%

## 2. 平成23年3月期の業績見通し

# 平成23年3月期 連結業績の見通し

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分		22年3月期 実績	23年3月期 見通し	増減
営業 収益	高速道路事業	1,666	2,570	+903
	料金収入等	1,588	1,710	+121
	道路資産完成高	70	854	+784
	その他	7	5	▲ 2
	関連事業	115	162	+46
	計	1,782	2,732	+950
営業 利益	高速道路事業	38	19	▲ 18
	関連事業	5	3	▲ 1
	計	43	23	▲ 20
経常利益		52	11	▲ 41
当期純利益		30	6	▲ 23

## 連結業績の見通し

税引後当期純利益は、親会社の利益1億円に連結子会社等の利益5億円を加えた6億円(前年同期比23億円減)となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた平成22年度事業計画に基づいています。

(注) 平成23年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

# 平成23年3月期 個別業績の見通し

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分		22年3月期 実績	23年3月期 見通し	増減
営業 収 益	高速道路事業	1,659	2,564	+905
	料金収入等	1,588	1,710	+121
	道路資産完成高	70	854	+784
	関連事業	106	151	+45
	計	1,765	2,716	+951
営業 利 益	高速道路事業	28	12	▲ 16
	関連事業	3	2	▲ 1
	計	32	14	▲ 17
経 常 利 益		35	2	▲ 33
当 期 純 利 益		18	1	▲ 17

## 個別業績の見通し

営業収益は、  
2,716億円(前年同期比951億円増)  
営業利益は、  
14億円(前年同期比17億円減)  
経常利益は、  
2億円(前年同期比33億円減)  
当期純利益は、  
1億円(前年同期比17億円減)  
となる見通しです。

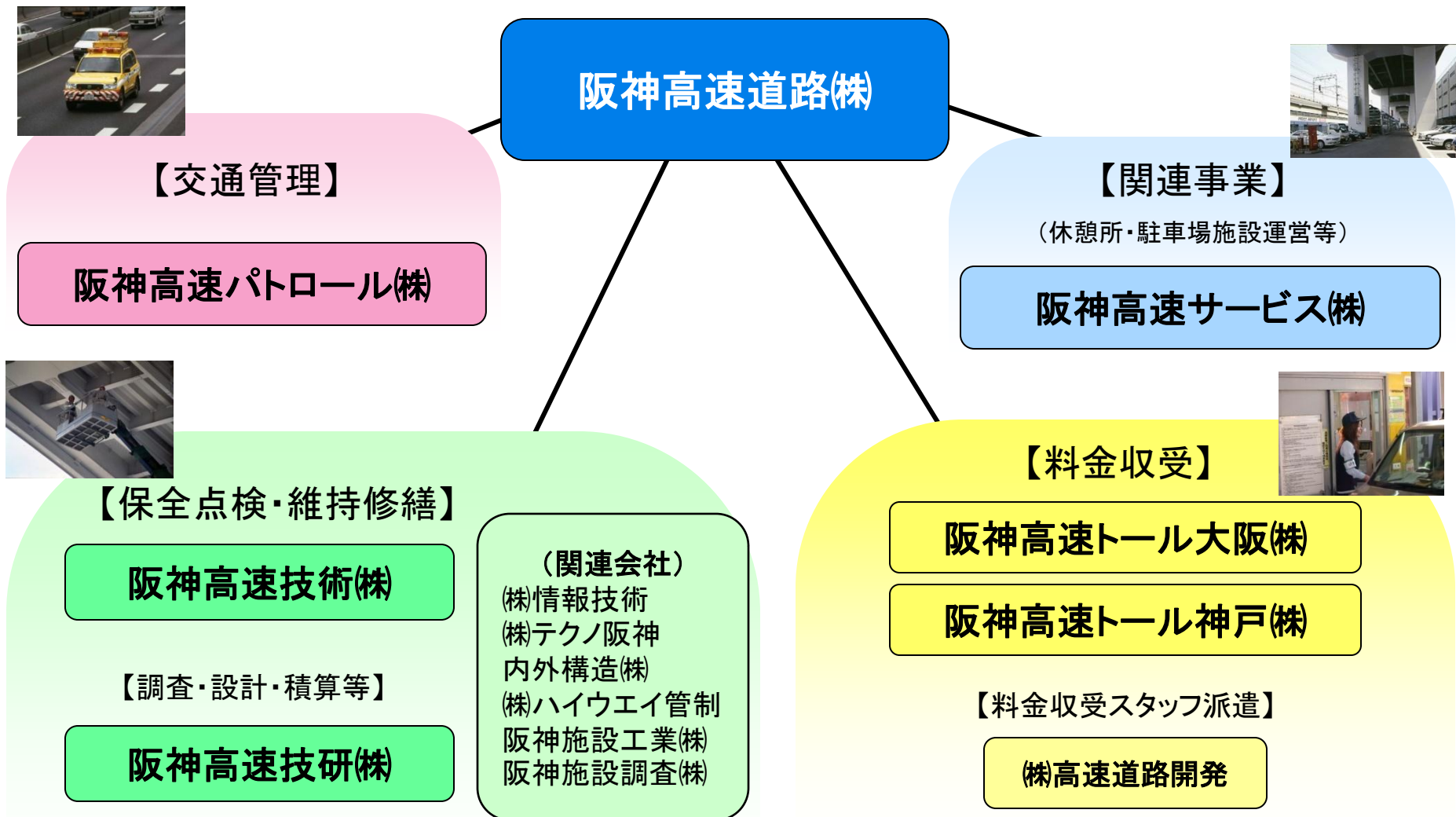
なお、見通し額は国土交通大臣から認可を受けた平成22年度事業計画に基づいています。

(注) 平成23年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

### 3. 阪神高速グループの概要



# グループ経営体制(全体イメージ)



# 関係会社の状況 ①

## 連結子会社 平成22年3月31日現在

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合(%) (注)	関係内容
阪神高速サービス(株)	大阪市西区	40	高速道路事業 その他の事業	100	休憩施設及び駐車場施設の運営 並びに広報業務等
阪神高速技術(株)	大阪府中央区	20	高速道路事業	100	保全点検・維持修繕業務
阪神高速パトロール(株)	大阪市西区	10	高速道路事業	100	交通管理業務
阪神高速トール大阪(株)	大阪市西区	50	高速道路事業	100	料金收受業務(大阪地区)
阪神高速トール神戸(株)	神戸府中央区	50	高速道路事業	100	料金收受業務(兵庫地区)
阪神高速技研(株) (注2)	大阪市西区	30	高速道路事業	100 (48.9)	調査・設計・積算等業務
(株)高速道路開発 (注3)	大阪市西区	50	高速道路事業	39.4 (39.4)	料金收受スタッフ派遣等

(注1) 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数となっています。

(注2) 阪神高速技研(株)は、平成21年4月1日に商号を(株)ハイウェイ技研から変更しています。

(注3) (株)高速道路開発及び(株)コーベックスは、平成22年3月1日に合併しています。

## 関係会社の状況 ②

### 持分法適用関連会社 平成22年3月31日現在

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合(%) (注)	関係内容
(株)情報技術	大阪市西区	20	高速道路事業	11.8 (11.8)	システムに係る運用管理等業務
(株)テクノ阪神	大阪市西区	20	高速道路事業	6.7 (6.7)	機械設備に係る保全点検・維持修繕業務
内外構造(株)	大阪府中央区	21	高速道路事業	6.7 (6.7)	構造物に係る保全点検業務
(株)ハイウェイ管制	大阪市西区	40	高速道路事業	11.3 (11.3)	電気通信設備に係る保全点検・維持修繕業務(大阪地区)
阪神施設工業(株)	大阪市港区	36	高速道路事業	4.7 (4.7)	電気通信設備に係る保全点検・維持修繕業務(兵庫地区)
阪神施設調査(株)	大阪市西区	20	高速道路事業	10.0 (10.0)	建物に係る保全点検・維持修繕業務

(注) 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数となっています。

## 主なトピックス

- ・3号神戸線(湊川～京橋間)及び16号大阪港線フレッシュアップ工事の実施
- ・交通安全対策アクションプログラムによる交通事故1000件減
- ・ETC普及促進・利用促進についての取組み
- ・建設中路線の整備促進
- ・中島パーキングエリアのリニューアル(H21.4.25)
- ・大阪港咲洲トンネル・夢咲トンネルの管理者として管理運営開始

# 3号神戸線(湊川～京橋間)及び16号大阪港線 フレッシュアップ工事の実施

## □安全な道路サービスの提供

- ・高機能舗装の打替え
- ・伸縮継手埋設箇所の改良
- ・カーブ区間の視認性向上

## □快適な道路サービスの提供

- ・舗装の平坦性向上
- ・遮音壁へのライン標示による視認性向上



〔3号神戸線(湊川～京橋間)工事状況〕



〔16号大阪港線工事状況〕

### 【3号神戸線(湊川～京橋間)】

- 路線特性(代替となる主要なう回路が少ない等)を配慮し、短期間に数多くの工事を集中して実施でき、交通影響を極力少なくすることが可能な「終日1車線規制」による工事を実施。
- 9昼夜連続の終日1車線規制を実施(当初予定より26時間短縮)

### 【16号大阪港線】

- 短期間に数多くの工事を集中して実施することができ、交通影響・広報の分かりやすさなどで優れた「終日通行止め」による工事を実施。
- 8昼夜連続の終日通行止めを実施(当初予定より3時間短縮)



〔高機能舗装の打替え〕



〔カーブ区間の視認性向上〕

# 交通安全対策アクションプログラムによる 交通事故1,000件減

平成19年に「阪神高速道路の交通安全対策アクションプログラム」を策定し、平成19年度から21年度までの3年間で、平成17年度比マイナス1,000件を目標に対策を実施してきました。

その結果、目標を上回る事故削減数(▲1,221件)を達成しました。今後も事故を削減し、安全な都市高速道路を実現するため、平成22年度は、新たな交通安全対策アクションプログラムを策定します。

## □これまで実施してきた主な対策内容

- ・滑り止め対策・視線誘導灯(カーブ区間)の設置
- ・LED看板(カーブ区間、分合流区間)の設置
- ・混在レーン廃止・ETC専用レーンのカラー表示化(本線料金所)
- ・落下物防止対策啓発用DVD(落下物による事故)の配付



# ETC普及促進・利用促進についての取組み

## ◆ ETC車載器購入支援の実施

### □ 「ETC夏トクキャンペーン2009」の実施 (H21.7.8~8.31)

ETC利用率は、平成22年2月には日別利用率が過去最高の**85.7%**を記録



## ◆ 料金関連施策の実施

### □ 事前に申込みいただいた対象日に、ETCにより 定額で乗り放題となる企画割引を発売

- ・「阪神高速ETC1日乗り放題パス【2009 夏】(H21.6.6~H21.8.30)
- ・「阪神高速ETC1日乗り放題パス【2009 秋】(H21.9.5~H21.10.12)
- ・「阪神高速ETC1日乗り放題パス  
【フェリー(別府—大阪)】(H21.10.31~H22.3.31)

合計約17,000名のお申し込みをいただきました。







## 中島パーキングエリアのリニューアル(H21.4.25)

日本で初めての海上パーキングエリアとして平成6年4月にオープンした5号湾岸線中島パーキングエリアが、「ecoなパーキングエリア」として生まれ変わりました。

これまで以上に「海と風を感じられる」パーキングエリアとしてお客さまに喜んでいただいています。また、周辺環境や地球環境にも配慮した様々な取組みを通して、地球環境の保全を発信しています。

### 〔施設の特徴〕

#### □「ecoなパーキングエリア」

- ・電気自動車の急速充電器の設置  
(西日本のパーキングエリアで初！)
- ・屋上緑化により室温上昇を防止
- ・光触媒の塗布によりNO<sub>x</sub>を分解 など

#### □海と風を感じられるパーキングエリア

- ・大阪湾に沈む夕陽と海風を感じることができる「屋上デッキ」や屋外で休憩できる「屋外ボードウォーク」など、海上パーキングエリアの特長を活かした様々な工夫でお客さまをお迎えしています。



# 大阪港咲洲トンネル・夢咲トンネルの管理者として 管理運営開始

平成21年6月1日から指定管理者として大阪港咲洲トンネル(※)を、平成21年8月1日からは夢咲トンネルも管理運営しています。(※指定管理者制度による高速道路会社の臨港道路の管理は初めてです。)

阪神高速グループが大阪港咲洲トンネルと夢咲トンネルを管理することにより、「より一層の安全・安心・快適なご利用」と「管理費用の縮減」が図られます。

また、阪神高速道路と大阪港咲洲トンネル及び夢咲トンネルの道路情報等を相互に活用することが可能となり、道路ネットワークの有効活用が図られ、大阪港の国際競争力の強化に大きく寄与することが期待されます。



◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】



阪神高速道路株式会社 経理部財務課

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号

TEL: 06-6252-8121(代)

FAX: 06-6251-6930

URL: <http://www.hanshin-exp.co.jp>